

戦時期松江の保健衛生と医療

はじめに

1. 松江で暮らす人々の生活を歴史資料から検討すること
 - 1) 歴史資料について
2. 課題：島根県社会保健婦養成所、および保健婦活動の検討を通じて、戦時期の島根・松江の保健衛生について考える。
 - 1) 保健婦について →資料①・②

I 戦時期日本の保健衛生政策について

- ・年表参照 →資料③

II 島根県社会保健婦養成所について

1. 設立の前提

- 1) 1940 年の松江高等女学校における結核感染事件
- 2) 県民の保健衛生状況
→資料④
- 3) 加藤精三県学務部長の構想
→資料⑤・⑥

2. 特色

- 1) 設立
→資料⑦
- 2) 沿革
→資料⑧
- 3) 「島根県市町村厚生機構」構想
→資料⑨
- 4) 養成所の機構と教授科目
→資料⑦
- 5) 高等女学校保健科の機構

III 手記・新聞・アンケートからみる保健婦の活動と意識

1. 手記（『草わけの保健婦養成』1985 年）

- 1) 遠藤糸子さん（旧姓：伊古美）第 1 期生
→資料⑩
- 2) 神原信子さん（旧姓：金森）第 2 期生
→資料⑪

2. 新聞

- 1) 大場敏子さん（『島根新聞』1942 年 7 月 24 日）
→資料⑫
- 2) 永野貞さん（旧姓：三浦）松江保健婦養成所講師（『島根産業組合新聞』1944 年 2 月 21 日）
→資料⑬

3. アンケート（『草わけの保健婦養成』1985 年）

- 1) 卒業期別回答状況
→資料⑭
- 2) 入所の動機
→資料⑮
- 3) 保健婦の情報
→資料⑯
- 4) 勤務年数
→資料⑰
- 5) 業務内容
→資料⑱
- 6) 仕事上の苦勞
→資料⑲
- 7) 保健婦観

4. まとめ

- 資料⑳

おわりに

1. 保健婦による「記録」
2. 「島根県市町村厚生機構」構想
3. 女性たちにとっての保健婦経験／地域にとっての保健婦活動
4. 戦後への展望

参考文献一覧